

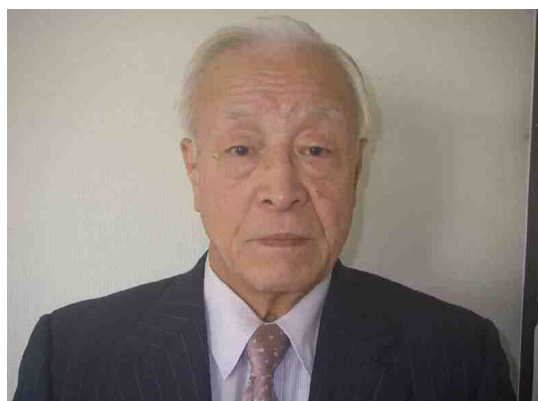
# NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

## ニューズレター issue 55



都市災害に備える技術者の会事務局：〒651-1432 兵庫県西宮市すみれ台3-1（太田ジオリサーチ内）  
TEL:078-907-3120 FAX: 078-907-3123 e-mail: office@toshisaigai.net http://www.toshisaigai.net

### 年 頭 所 感 理事長 伊藤東洋雄



新年明けましておめでとうございます。

NPO 法人都市災害に備える技術者の会会員の皆様に  
謹んで新年のお慶びを申し上げます。

また、平素は本会の活動にご理解とご協力を賜り厚く  
お礼申し上げます。

ところで、今年の漢字に【災】が選ばれた通り、昨年  
は災害が続発した年でありました。

6月に発生した大阪北部地震は丁度通勤時間帯であ  
ったことから、私自身も3時間電車内で身動きできないという体験をしました。引き続き7月には  
西日本豪雨災害が発生し、岡山県、広島県、愛媛県には特に大きな被害をもたらしました。もうこ  
れで治まって欲しいと願った矢先9月に震度7を記録する北海道胆振地震が起きました。そして  
これらにより多くの尊い命と財産を失いました。

阪神・淡路大震災を契機に少しでも被害を減ずることはできないかと立ち上げた本会は設立後14  
年が経過しました。これまで発災前の備えについて地域住民や学校、自治体の皆様に向け啓発活動  
をしてきました。また、微力ながら発災後の被災地での支援活動をしてきましたが、これらの活動  
が本当に地域の皆様の要望に応え、防災力向上に役立っているのか、他にやらなければならないこ  
とは何か、そしてそれができるのか、できない場合はどうすれば良いのか、再度私どもの活動のあ  
り方について見直していきたいと考えています。

幸い昨年は新たに4人の同志が加わり活動力も一層充実しました。

昨年から取り組み始めた地区防災計画作りのための町歩きなども含め全会員の持てる力を結集  
して社会に貢献していきたいと考えています。

会員の皆様におかれましては今年も本会へのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げま  
すと共に、併せて今年も皆様の益々のご発展を祈念致しまして年頭の挨拶と致します。

本年もどうぞ宜しくお願い致します。

**2月9日（土）第53回防災講演会**

防災講演会のご案内です。

『2018年 頻発した災害—災害報道の現状と課題—』

講師：安富 信先生（神戸学院大学教授 日本災害情報学会理事）

日時：平成31年2月9日（土）13時30分～16時50分

場所：ドーンセンター

参加費：無料

[http://toshisaigai.net/event/20190209yasutomi\\_annai.pdf](http://toshisaigai.net/event/20190209yasutomi_annai.pdf)

**【講師略歴】**

■安富 信（やすとみ まこと）神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 教授

1979年 読売新聞大阪本社入社。松江支局、京都総局、社会部府警捜査一課担当、遊軍記者などを経て、社会部阪神支局（兵庫県尼崎市）次席

1995年1月 在籍中、阪神・淡路大震災が発生。

2005年から1年間、人と防災未来センター研究調査員として出向し、災害情報論を学ぶ。

2006年から4年間、読売新聞防災・減災担当編集委員。

2014年4月 新設された神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科教授に就任。

日本災害情報学会理事、社会貢献学会事務局長（理事）、さんだ防災リーダーの会相談役、減災報道勉強会「関西なまずの会」会長。専門は、災害情報、災害報道、危機管理情報、ボランティア論。



安富 信教授

**【講演概要】**

大阪府北部地震、西日本豪雨、台風20号、21号に見舞われた関西、そして9月6日に発生した北海道胆振地方の大地震。2018年はまさに災害の年でした。

24年前に起きた阪神・淡路大震災では、マスコミ各社はヘリコプター騒音や避難所取材、手段的過熱取材（メディアスクラム）で大きな批判を受けました。それから24年、「マスコミの取材は進化しているのか？」この視点で、2018年の災害報道を振り返ります。

「被害の大きな地域に偏向する取材」、「被災者のプライバシー無視」や「強引な取材はなかったか?」、「時の政権に利用されたような報道は?」、「地震発生直後のテレビの伝え方は?」などを検証します。

**広陵町～王寺町 町歩き記録**

地区防災計画作成支援の勉強のため、平成30年12月22日に奈良県広陵町、王寺町において町歩きを実施しました。広陵町は、はしお元気村～葛城川・曾我川・広瀬川合流地点～大場地区環濠集落、王子町は、JR 王寺駅～葛下川～大和川合流地点～大和川～みその自治会館～

久度第2貯留池を見て回りました。

参加者は、NPO 会員の伊藤、太田、大野、貴志、西濱、松川、山田の計7名、王寺町町歩きからNPO 会員の渡邊氏と、王寺防災士の瀬寄、八木沢氏参加が合流し、合計10名の町歩きとなりました。町歩きの内容は以下のようなものでした。

- ・ 広瀬川と曾我川の合流点～曾我川と葛城川の合流点を視察
- ・ 大場地区の環濠集落を視察；大和盆地は平坦なため、農業水利のため池や浸水被害を守るための環濠集落が多い。環濠の内側の集落は周りの田よりも地盤を高くして浸水を防いでいる。田は大雨時の貯留池の機能を持たせている。



広陵町 元気村で事前説明をうける



広瀬川と曾我川の合流点



大場地区の環濠集落

- ・ 王寺町へ移動



- ・王寺駅南で渡邊氏、王寺防災士の瀬寄、八木沢氏と合流
- ・葛下川堤防上を大和川との合流地点まで歩き、昭和 57 年水害時の状況を確認する。現在の堤防は当時より約 2.5m 程度嵩上げされている。JR 王寺駅の車庫に停留していた電車が水没しモーターなどを損傷した。
- ・大和川を少し上流へ歩き、国交省による今年工事した堤防改修結果などを視察する。
- ・みその自治会館でみその地区における自主防災活動の現況などについて説明を受ける。
- ・みその地区を含む久度地区には 13 の自治会があるが足並みが揃わないのでみその地区のみで地区防災計画を進めたいとの説明があった。尚、みその地区の自主防災会は役員が 10 名で 1 回／月会議をしている。
- ・その後、久度第 2 貯留池を視察後解散した。子供たちがサッカーをしていた。



大和川の JR 鉄橋に出水時にかかったゴミ



みその自治会館での意見交換

## 事務局だより

- ◆ニューズレターのバックナンバーは、ホームページ ([http://toshisaigai.net/newsletter/newsletter\\_index.html](http://toshisaigai.net/newsletter/newsletter_index.html)) にアップロードしています。
- ◆WG 活動の例会の案内は、ホームページにも掲載しますので、ご興味のある方は参加してください。
- ◆2018 年度会費の納入がまだの方は、納入をよろしくお願いいたします。(正会員 5000 円です) すでに、会費を振り込まれた方は、ありがとうございました。  
郵便局 00990-1-162816 加入者名 都市災害に備える技術者の会  
三井住友銀行 藤原台支店 普通預金 7566003 特定非営利活動法人 都市災害に備える技術者の会  
(2年間連続で未納の場合、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。)
- ◆住所変更・メールアドレス変更等はできるだけ早く事務局にお知らせください。  
書式等は、ホームページ <http://toshisaigai.net/join/join.htm> にあります。
- ◆メーリングリストが届かない方は、事務局までお知らせください。またメーリングリスト不要の方は、毎月初めに届くメーリングリスト備忘録に従って登録を外してください。
- ◆研修会講師の心当たり、あるいは研修内容の希望がありましたら、事務局 (office@toshisaigai.net) までお知らせください。
- ◆ニューズレターの原稿を随時募集いたします。お気軽に事務局までお送りください。